令和２年度　成績概要書

課題コード（研究区分）：　4104-426500　（道受託研究）

１．研究課題名と成果の要点

１）研究成果名：令和２年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
（研究課題名：令和２年度病害虫発生予察調査）
２）キーワード：病害虫発生予察、注意すべき病害虫、新発生病害虫
３）成果の要約：令和２年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として 10 病害虫を示す。また、令和３年度に特に注意を要する病害虫として５病害虫について防除指導上の注意を喚起する。さらに、令和２年度に新たに発生を認めた病害虫として 24 病害虫（病害 13、害虫 11）を示す。

２．研究機関名

１）担当機関・部・グループ・担当者名：中央農試・病虫部・予察診断Ｇ・小松　勉、
中央農試・病虫部・病害虫Ｇ、上川農試・研究部・生産技術Ｇ、
道南農試・研究部・作物病虫Ｇ、十勝農試・研究部・生産技術Ｇ、
北見農試・研究部・生産技術Ｇ、花･野菜技術センター・研究部・生産技術Ｇ
２）共同研究機関（協力機関）：北海道農政部技術普及課、北海道農業研究センター、
北海道病害虫防除所、（全道農業改良普及センター）

３．研究期間：令和２年度　（2020 年度）

４．研究概要

１）研究の背景

病害虫の発生はその年の発生状況や気象経過のほかに、前年の発生状況の影響を受ける。効率的な病害虫防除を実施するためにはそれらを踏まえた全道的な情報が求められる。また、道内で未確認の病害虫が突発的に発生するため、迅速な対応が求められる。

２）研究の目的

全道での病害虫発生状況を新発生病害虫も含めて記録し、これをもとに次年度に注意すべき病害虫を示して防除指導にあたっての注意を喚起する。

５．研究内容

１）農作物有害動植物の発生状況

・ねらい：農作物有害動植物の発生状況を記録する
・試験項目等：18 作物･86 病害虫の発生状況を調査

２）突発および新発生病害虫の診断試験および調査

・ねらい：道内で新たに発生した病害虫を同定し記録する
・試験項目等：発生調査、再現試験、同定試験

６．成果概要

１）令和２年に多発～やや多発した病害虫

(1) 水稲：紋枯病、セジロウンカ
(2) 秋まき小麦：赤さび病
(3) てんさい：ヨトウガ（第１回）
(4) たまねぎ：タマネギバエ・タネバエ、ネギアザミウマ
(5) ねぎ：ネギアザミウマ
(6) ブロッコリー：コナガ
(7) りんご：腐らん病、黒星病

２）令和３年度に特に注意を要する病害虫

(1) 水稲のヒメトビウンカ

多発地域および縞葉枯病発生地域では、他害虫との同時防除も考慮し、本種に効果のある薬剤を用いて防除する必要がある。

(2) とうもろこしのツマジロクサヨトウ

本種は令和２年に道内で初確認された飛来性害虫である。早期に飛来した場合には被害が大きくなる可能性があるため、早めの薬剤防除が必要である。病害虫防除所から飛来の情報が発表された場合、ほ場

を観察し、本種の被害が疑われる場合は農業改良普及センターや農業試験場、病害虫防除所に連絡する。

(3) 野菜類のネギアザミウマ

たまねぎ、ねぎなど野菜類の重要害虫で、高温少雨条件で多発しやすい。近年８～９月どりキャベツなどで結球内部を成虫が加害することによる品質低下も報告されている。薬剤防除においては、防除開始適期を逸しないこと、効果の高い薬剤を使用すること、適切な間隔で防除することが重要である。

(4) うり科野菜の土壌伝染性病害

令和２年、道内においてホモプシス根腐病の発生がメロンおよびきゅうりで確認された。また、メロン黒点根腐病の発生地域が拡大している。両病害ともに発生に気が付かずに被害が拡大している可能性がある。毛細根を観察して、ホモプシス根腐病による黒色構造（偽子座、偽微小菌核）または黒点根腐病による子のう殻の有無を確認する必要がある。

(5) りんごの腐らん病

近年の多発傾向により、伝染源が多いと推測される。り病部は１年を通じて胞子を分散させるため、園地を良く観察し、被害部を発見した場合、早期に削り取り、ゆ合剤を塗布する。除去した被害部や剪定枝は園外に搬出する。また、樹勢を維持するための基本管理も重要である。

３）新たに発生を認めた病害虫

・小麦のタテスジケンモン(新寄主)
・とうもろこし（生食用、飼料用）のツマジロクサヨトウ（新発生）
・とうきの斑点病（新発生）
・キャベツのヒメダイコンバエ（新寄主）
・たまねぎの菌糸腐敗病菌による立枯症状(新症状)
・きゅうりのホモプシス根腐病（新発生）
・メロンのホモプシス根腐病（新発生）
・ヤーコンのヨモギスネナガアブラムシ（新称・新寄主）
・みょうがのモザイク病（新発生）
・デルフィニウムのキタネグサレセンチュウ（新寄主）
・ぶどうのミヤマスカシクロバ（新寄主）
・ぶどうのブドウキンモンツヤコガ（新寄主）
・ぶどうのオオブドウキンモンツヤコガ（新寄主）
・ぶどうのヒメトラガ（新寄主）
・ぶどうのキボシルリハムシ（新寄主）
・ぶどうのコスズメ（新寄主）
・かのこそうの株腐病（新称・国内新発生）

他７病害（病原の追加、病原の変更、病原菌の同定および薬剤耐性菌の出現）

〇新称：これまで正式な名称（病名、害虫の和名）のなかった新たな病害虫の名称提案。
〇国内新発生：これまで国内での発生事例がなかった病害虫
〇新発生：道内での発生事例がなかった病害、道内に分布が確認されていなかった害虫
〇新寄主：道内に分布することが既知である害虫の、新たな作物への加害記録
〇病原の追加：既知病害と病徴に違いのない新たな病原の追加
〇薬剤耐性菌の出現：道内での発生事例がなかった薬剤耐性菌の出現
〇病原の変更：既知病害の病原について再検討され、異なる病原であることが明らかとなったもの
〇病原菌の同定：未同定だった病原菌の種名の確定

７．成果の活用策

１）成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。また、令和３年度に特に注意を要する病害虫については適切な防除対策を講じる。

２）残された問題とその対応

８．研究成果の発表等